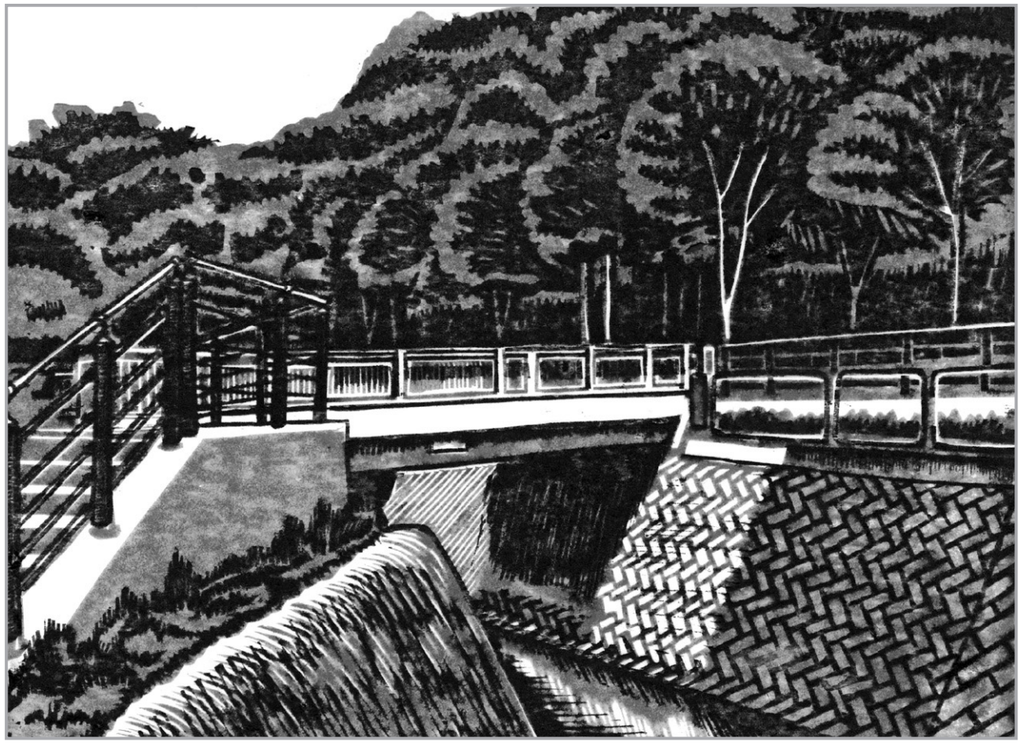
いたちかわらばん

通刊35号　鼬川・独川 / 川原番・瓦版　06 秋号



【版画　宗森英夫】　（上郷地区センター入口のほたる橋）

いたち川の上流を調べてみませんか？

いたち川周辺に人が暮らし始めたのはとても古いことが遺跡などからわかります。川の流れにも周りの景観にも、よく観察してみると過去のいろいろな痕跡が見られ、今は隠れているのを発見する機会もあります。上郷高校のそばにある横堰の近くでは貝の化石などを大学生たちが調べて大昔の海と今の地形の関係などを研究しています。水は暮らしを支え人々は川を大事に守って利用してきました。そんな名残が今もまだ見られるのが昇龍橋の辺りから上流です。曲がりくねった流れには石の橋や木の橋がかかり、畑は豊かに作物を実らせています。その畑の中の大きな石は関東大震災の時に山から転がり落ちたものがそのままになっているのです。古い白山神社の跡もあります。昇龍橋はその白山神社への参道に架けられた橋で、当時の日本での最新技術の橋といわれ修理されながら今も立派に残され、神奈川の橋百選に選ばれて区民に親しまれています。

橋を調べてどんな時代に作られたのか材料や形から、どこかに似た橋がないか探してみると何か発見できるかもしれません。版画の橋は前号で紹介した上郷地区センターへ架けられ、今後の賑わいが楽しみな「ほたる橋」です。昔のことを知っている人たちに聞いてみると面白い魚とりや川遊びの工夫など、忘れられかけていることに気がつくかもしれません。

（うぐいす）

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です

野や山を歩き、自然を身近に感じてみよう

小学校理科研究会　金沢区・磯子区・西区　三区合同臨地研修会報告

前の日までずっと梅雨の長雨が続き、開催が心配されていたにもかかわらず、その日だけ、スコーン！と梅雨が中休みを取った、７月２６日水曜日、三区の理科研究会合同・臨地研修会が開催されました。「野や山を歩き、自然を身近に感じてみよう」をテーマに、キャリア・コミュニケーターの和久井征治さん（いたち川 OTASUKE 隊イベント委員長）を講師に迎え、研修会が始まりました。

講師から、いろいろな植物の話を教わりながら、山道を歩きます。今回の研修会では、隊列が細長くなるため、先頭の講師のお話が後ろのほうの人には届きません。そこで、先頭にいる係の先生が、そのお話を聞き、それを荷札にメモをして、その植物に貼っていく（最後尾の先生がそれを回収する）というスタイルがとられました。

植物の名前を覚えるとき、その名前の由来を聞くと覚えやすいと教えて貰いました。たとえば、テイカカズラは有名な歌人の藤原定家のお墓によく生えていたからだ、等なるほどと思わされるものばかりです。

植物のお話はさらに続き、いくつもの興味深いお話を聞かせていただきました。アカネはその根が赤い染色の材料になり、アカネを集めてこの地では貢租にしていた。コウゾは和紙の原料として知られ、昔のお札はコウゾからできていた... 等々。

休憩時間には、植物に関するクイズ大会です。

①ゲーテが詩に書いた東洋と西洋を結ぶ象徴的植物は何？

②友禅染めの下絵を描くときに使う染料は何の花からとる？等、

ゲーテや夏目漱石、ギリシャ神話まで出てくるクイズに、「へー！？」「ほうー！」ばかりの参加者たちは、植物を理科的・生物学的な視点だけではなく、もっと広い視野から見ていくことの大切さを教えていただきました。

さて、山道歩きも後半に入り、朝比奈切通しを歩きます。

この切通しを一夜にして作ったという伝説の朝夷奈三郎義秀にちなんだ「三郎の滝」から流れる水や朝比奈切通しからしみ出てくる水が、鎌倉市内を貫く滑川の源流となっているそうです。三郎の滝のまわりの崖には、鎌倉時代のお墓といわれるヤグラがいくつも見られました。

ぬかるみばかりの朝比奈切通しをなんとか乗り越え、ゴールにたどり着きました。

一日楽しく、そしていろいろなことを学ぶことができて、有意義な研修会でした。

和久井講師の説明風景

↑　荷札に植物名をメモする

三郎の滝　→

〈クイズの答え〉

①「イチョウ」。葉が裂けているのに葉の基部はつながっていることをとらえて、大きく文化が異なるようにみえる東洋と西洋も、ユーラシアという共通の大陸でつながっているのだ、とした詩を書いています。

②「ツユクサ」。友禅染めや絞り染めでは、下絵を描く染料として「ツユクサ」の花を使っています。

（金沢区　理科研究会　六浦小学校教諭　大野俊治）

発行年月 2006年9月
通刊35号

発行：独川OTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）
OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247 - 0005　横浜市栄区桂町303 -19
TEL 045 - 894 - 8161　FAX 045 - 895 -2260
栄土木事務所下水道・公園係　〒247 - 0007　横浜市栄区小菅ヶ谷 1- 6 -1
TEL 045 - 895 - 14 11　FAX 045 - 895 -1421
（お便り・お問い合わせは こちらまで）

【いたち川水源探査 - 2】

赤坂川の源流を訪ねる

今回は、３２号「いたち川の水源」の内、③右岸に流れ込む“赤坂川”（別名“狸川”）について報告します。実際の探査は春まだ浅き２月下旬に行われましたので、やや時候の異なる表現が散見される報文になりますがご容赦頂きたいと思います。

集合地点は本郷台駅前でしたが、歩くルートは、メンバーの一人Ｆさんが得意のパソコンで作図したカラフルな行程地図に示されている。

赤坂川水源は、本郷台駅の北方 1.5km、小菅ヶ谷四丁目に相当する位置にある。探査のルートは「新橋（にいはし）」からかまくら道・中道沿いに遡って北東方面に向かい「桂町戸塚遠藤線」に出て環状３号線の下を潜ってそこに至る。水路は殆どが暗渠であるため流れを目にすることは出来ない。

駅前からいたち川を下流に向かい新橋を目指す。

途中、「海里橋」の近くにはハクチョウなどと共に来て冬を過ごすオナガガモのつがいが、カルガモと一緒に仲良く泳いでいる。
その下流の「花の木橋」では“水の流れの速さを変えて水温を調節する仕掛”が施してあり、その作用でフサモを発生させて水中の酸素発生を促していることを学んだ。魚たちに酸素供給装置をこしらえてやってる訳だ。いよいよ新橋に到着、実質的な探査スタート点である。

かまくら道の上道・中道・下道が合流する橋袂には“これよりとつか宿”と書かれた道標があり、直ぐ後ろには延命地蔵尊が屋根付きの小屋の中に納められている。道標には元禄４年と刻まれており、歴史書によれば５代将軍綱吉の時代で、側用人柳沢保明が羽振りを利かせ、芭蕉の「猿蓑」が刊行された年と記されている。戦乱の世が静まって９０年余、旅行者への思いやりが石碑の形で示される時代に変わったのだろうか。

西本郷小学校の前を通って JR 根岸線のガードをくぐり、鎌倉ヤグラの「七石山横穴古墳」に向う。通常、ヤグラは後が壁になった閉鎖空間のはずだが、ここでは後を切り取られてしまって丸くあなが開いた状態になり、さながら岩をくりぬいたように見える。案内板によれば６世紀頃のものだというが、こんな所にちまちまと残っていていつまで保つものやら・・。

栄第一水再生センターを通って間もなく、萱葺き屋根の「長屋門」が見える。堂々とした構えと風格、歴史を背負ったたたずまいで貫禄さえ感じる。これなら地震なんぞへっちゃらだろうが、萱葺き屋根の葺き替えなど保存・補修が大変だろうなあー。

桂町戸塚遠藤線との交差点には、徳川家康の「花立の薬師」や古文書で知られ、「なんじゃもんじゃの木」で有名な「長光寺」がある。幅広い舗装道路はまだ延線工事中だが、我々はその東側に並行している小道を歩く。この辺の暗渠は全て新道路下に設けられた暗渠に移される由。

すぐそばの東側の山が削られてマンションになってしまっており、今も重機が置かれていて山削り作業が進行していることを示している。近くにはマンションを造成したがために移されたのだろうか、可哀想にコンクリート壁に埋め込まれた「道祖神」と「庚申塚」があったが、以前のようにひっそりと道端にたたずんでいてくれた方がはるかによろしい。

環状３号線を潜って「飛石の信号」を過ぎて更に進み、左手に本郷台赤坂公園を望む辺りを右に折れると水溜りと小さな流れが現われ、奥の方の谷地に続く。低い草丈の明るい空間があり水がチョロチョロと流れている。

ここが赤坂川の水源だ。こんな所が‥でも、やはりそれらしい所だなあー。水源というのは川の始まりの場所だから凄く存在感があるような気がする。我々のように探し廻ってくれる者以外には軽々しくその姿を見せることのない一種の秘められた場所でもある。

ここは近く、公園に生まれ変わることになっているそうだが、本当はこのままの姿でひっそりと残しておきたいと思う。しかし、周辺の開発が進むとそうもゆかず行政が買い上げて公園にする必要があるのだろう。なお、公園の整備にあたっては、貴重な自然環境を守るため、造成工事は最小限にとどめるとのことだ。

“春の小川はさらさらゆくよ・・♪”は古今の小学唱歌の名作だが、ここに謳われている小川が“渋谷川”であることは広く知られている。しかしながら今の渋谷駅から明治通り沿いを歩いて見てもどこにも“春の小川“は見当たらない。それは無理もない、こんにち、渋谷川は暗渠になって渋谷の街中の地下を人の目に触れず流れているからである。

暗渠を流れている限り川の水面が人目に触れることはない。それは小学唱歌・春の小川の渋谷川もいたち川支流の赤坂川も同じことだ。

暗渠を流れる川は可哀想である。せめてカレーズ（注１）のように日頃人々に接していて、有難がられる存在でありたいものだ。　（ピンテール）

（注１）「カレーズ」は、沙漠の地下を流れる水路である。シルクロードを紹介する番組などでよく見かけるもので井戸を掘って汲み出される。地上に住む住民の大切な命の水で、貴重であり、大切にされている。

リレートーク 31

十二年ぶりに復活した「いたち川まつり」

七月一日（土）に、いたち川縁の「ながやと子供の遊び場」（上耕地橋側）で栄通り商栄会とまちづくり対策協議会共催の「いたち川まつり」が行われました。広場には商店街のテントがずらりと並び、焼きそば、綿菓子、ラムネなどの屋台が軒を連ねました。

なかでも呼び物は、金魚すくいで、金魚四〇〇〇匹、ザリガニが五〇〇匹用意され、子どもたちの人気を集めました。以前は、いたち川を堰き止めて魚のつかみ取りもやっていました。

横浜Ｆマリノスの好意でサッカーチケット二〇〇枚が配られたり、のぼり旗二〇〇本が立てられるなど会場の雰囲気を盛り上げました。

十二時開会の予定でしたが、十一時過ぎには大勢の人が集まり、予定を繰り上げて開会しました。子どもから高齢者まで楽しめた一日でした。「子どもたちとふれあえるいたち川」「対話のもてるおまつり」をモットーに今後も継続していきたいと思っています。

今年は区制二十周年ということもあって、かつて十年以上も続いていた「いたち川まつり」を復活させました。まちづくり対策の一環として始められた催しですが、地域の活性化に役立っていると思います。

（栄区商店街連合会会長　臼井喜代士）

いたち川で見られる植物 10

勢力旺盛なオオブタクサ

いたち川の河川敷に生える草本類では、最も丈が高くなるもので、大きいものは三㍍近くなります。茎も根元の方では、子どもの腕ほどの太さになり、「これでも草か？」と思われるほどです。

キク科の一年草。北アメリカ原産の帰化植物で、一九五二年に静岡県の清水港で見つかり、現在では各地の河川敷・荒れ地などに広がっています。大群落をつくり、一度生えるとなかなか消えません。

花粉症で知られる風媒花で、花期は八～九月です。

（いもり）